

PRESS RELEASE

新国立劇場 2025/2026シーズン 演劇

いま、ここに——[1]

ガールズ&ボーイズ

ミュージカル『マチルダ』の脚本でも知られる
デニス・ケリーが描く、現代社会の歪みを浮き彫りにする傑作一人芝居。
稻葉賀恵の演出のもと、真飛 聖と増岡裕子がダブルキャストで挑む！



(左から)真飛 聖、増岡裕子



翻訳
小田島創志



演出
稻葉賀恵



芸術監督
小川絵梨子

2026年4月9日(木)～26日(日) 新国立劇場 小劇場
2026年2月11日(水・祝)10:00～ 一般発売開始！

【写真・資料のご請求、取材のお問い合わせ】

新国立劇場 制作部演劇 広報担当 杉田亜樹

TEL: 03-5352-5738 FAX: 03-5352-5737

E-mail: sugita_a8863@nntt.jac.go.jp

〒151-0071 東京都渋谷区本町 1-1-1



作品について

小川絵梨子芸術監督、任期最後のシリーズ企画「いま、ここに——」の1作目 "わたし"の順風満帆な人生——胸を衝く〈結末〉 人間社会のリアルを映す一人芝居を日本初演！

小川絵梨子芸術監督、任期最後のシリーズ企画「いま、ここに——」。変わり続ける世界の中で、それでも人はここにいる。ここに、居続ける。いま、ここに生きることと、小さな希望を見いたしていく3つの物語を2026年4月より三ヶ月連続で上演いたします。

オープニングを飾るのは、ミュージカル『マチルダ』の脚本でも知られるデニス・ケリーが、2018年に書いた一人芝居『ガールズ&ボーイズ』。ある一人の女性の人生を追いながら、愛、結婚、仕事、そして出会いと喪失を描き、順調に見えていた人生が予期せぬかたちで崩れていく過程を通して、現代社会に潜むさまざまな歪みを浮き彫りにします。ロンドン・ロイヤルコートシアターにてキャリー・マリガン主演で初演され、のちにブロードウェイでも上演された傑作を、2026年4月9日より日本初演でおおくりします。

新国立劇場主催公演史上初の一人芝居となる本公演の演出には、新国立劇場でも『私の一ヶ月』『誤解』で繊細な心理描写と大胆な空間設計を魅せてきた稻葉賀恵を迎えます。

そして、ただ一人の登場人物である主人公の女性役には、真飛 聖が稻葉との初タッグで挑みます。

また、作品に多角的な視点と深みをもたらすべく、異なる年齢層によるダブルキャストで上演する本公演。2025年9月より行われた公募オーディションを経て増岡裕子の出演が決定いたしました。

シンプルな構成ながら、俳優の身体性と語りの力が問われる濃密で挑戦的な本作。真飛 聖と増岡裕子、それぞれが稻葉と二人三脚で創り上げる一人芝居に、どうぞご期待ください。

あらすじ

人生、どうすればいいか分かんなくなった。

このままじゃだめだって思って。

だから、一人で旅に出たの。

そしたら、イタリアの空港で彼に会った。まるで映画みたいに。

恋に落ちて、結婚して、二人の子どもも生まれて、仕事だって順調で……

すべてがうまく転がっていく気がしてた。

だけど、ほんのちょっとしたことで、少しずつズレ始めて。

気づいたときには——もう戻れない場所にいた。

これは、そんな「わたし」の話。



スタッフプロフィール

[作] デニス・ケリー Dennis KELLY

イギリスの劇作家。1970年生まれ。2003年『Debris』(2000年執筆)で劇作家デビュー。05年『Osama the Hero』をハムステッド・シアターに書き下ろし、その後同劇場と緊密な関係を結ぶ。10年にロイヤル・シェイクスピア・カンパニー委嘱『Matilda the Musical』(ロアルド・ダール原作『マチルダは小さな大天才』)を上演、オリヴィエ賞、トニー賞の最優秀ミュージカル賞を受賞。ナショナル・シアターやドンマー・ウェアハウスなどにも作品を書き下ろす。他には映画『Black Sea』、BBC テレビなどにも脚本を執筆している。



[翻訳] 小田島創志 ODASHIMA Soshi

1991年生まれ。武蔵大学、共立女子大学ほか非常勤講師。演劇雑誌「悲劇喜劇」編集協力。専門はハロルド・ピンター、トム・ストップードを中心とした現代イギリス演劇。これまでの翻訳作品に『ロミオとジュリエット』『リチャード三世』『嵐 THE TEMPEST』『ドクターズジレンマ』『BIRTHDAY』『ULSTER AMERICAN』『ブレイキング・ザ・コード』『ラビット・ホール』『聖なる炎』『管理人／THE CARETAKER』『HEISENBERG(ハイゼンベルク)』『ポルノグラフィ』『受取人不明 ADDRESS UNKNOWN』など。一川華との共訳作品に『ケイン&アベル』。ミュージカルの翻訳・訳詞作品に『A Year with Frog and Toad～がまくんとかえるくん』『スライス・オブ・サタデーナイト』『回転木馬』。新国立劇場では、『スリー・キングダムス Three Kingdoms』『白衛軍 The White Guard』『エンジェルス・イン・アメリカ』『アンチボデス』『タージマハルの衛兵』を翻訳。

[演出] 稲葉賀恵 INABA Kae



日本大学藝術学部映画学科卒。2008年文学座附属演劇研究所入所。13年に座員となる。同年4月『十字軍』にて文学座初演出。これまでの主な演出作品に『Downstate』『狂人なおもて往生をとぐ～昔、僕達は愛した～』、ミュージカル『Once』、『リンス・リピート—そして、再び繰り返す—』『オレアナ』『リタの教育』、ミュージカル『ラフヘスト～残されたもの』、音楽劇『不思議な国のエロス』～アリストパネス「女の平和」より～、『クレバス 2020』『ブレイキング・ザ・コード』『幽霊はここにいる』『加担者』『母 MATKA』『墓場なき死者』『熱海殺人事件』『野鴨』など。23年、『加担者』『幽霊はここにいる』の演出で第30回読売演劇大賞優秀演出家賞受賞。新国立劇場では、『私の一ヶ月』『誤解』を演出。

出演者プロフィール

真飛 聖 MATOBU Sei



1995年、宝塚歌劇団に入団し、2007年に花組トップスターに就任。11年に宝塚歌劇団を退団後は、舞台・映画・ドラマなど多岐に渡り活躍している。これまでの主な出演に、映画『レンタル・ファミリー』『52ヘルツのクジラたち』『マッチング』『ミッドナイトスワン』『娼年』、ドラマ『身代金は誘拐です』『DOPE 麻薬取締部特捜課』『怪物』『情事と事情』、舞台『多重露光』『雪やこんこん』『グッドバイ』など。

増岡裕子 MASUOKA Yuko



2007年、文学座付属演劇研究所入所。2012年に座員となり、現在に至る。これまでの主な出演に、映画『沈黙の艦隊 北極海大海戦』、ドラマ、連続テレビ小説『あんばん』『19番目のカルテ』、吹き替えに、映画『リロ&スティッチ』『アナと雪の女王』、ドラマ『涙の女王』『アストリッドとラファエル』など。そのほか、ラジオドラマやWEBショートドラマへの出演なども多数。近年の主な舞台は『オセロー』『マニラ瑞穂記』『美しきものの伝説』『Don 't stop me now!』『スリーウィンターズ』など。

公演概要

いま、ここに——[1]『ガールズ＆ボーイズ』

【作】デニス・ケリー

【翻訳】小田島創志

【演出】稻葉賀恵

【美術】乘峯雅寛

【照明】横原由祐

【音響】池田野歩

【衣裳】ゴウダツコ

【ヘアメイク】高村マドカ

【演出助手】岩佐美紀

【舞台監督】足立充章

【芸術監督】小川絵梨子

【主催】新国立劇場

【キャスト】真飛 聖 ／ 増岡裕子 (Wキャスト)

【公演日程／会場】2026年4月9日(木)～26日(日) 新国立劇場 小劇場

2026年4月

9(木)	10(金)	11(土)	12(日)	13(月)	14(火)	15(水)	16(木)	17(金)	18(土)	19(日)	20(月)
		13:00 真飛	13:00 真飛	14:00 増岡		14:00 真飛	14:00 真飛		13:00 真飛	13:00 真飛	14:00 真飛
19:30 真飛	19:30 増岡				休演			19:30 増岡			

21(火)	22(水)	23(木)	24(金)	25(土)	26(日)
	14:00 増岡	14:00 真飛		13:00 増岡	13:00 真飛
休演			19:30 真飛		

【料金(税込)】A席 7,700円／B席 3,300円／Z席(当日)1,650円

【一般発売】2026年2月11日(水・祝)10:00～

【チケット申し込み・お問い合わせ】

新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00～18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <https://nntt.pia.jp/>

* **Z席1,650円** Z席は、公演当日朝10:00から、新国立劇場Webボックスオフィスおよびセブン-イレブンの端末操作により全席先着販売いたします。

先着販売後、残席がある場合は、公演当日朝11:00からボックスオフィス窓口でも販売いたします。※電話予約不可。

* **当日学生割引** 公演当日残席がある場合、Z席を除く全ての席種について50%割引にて販売。要学生証。電話予約可。

* **各種割引** 新国立劇場では、高齢者割引(65歳以上5%)、障がい者割引(20%)、学生割引(5%)、ジュニア割引(小中学生20%)、アトレ会員割引(5～10%)など各種の割引サービスをご用意しています。

【新国立シアタートーク】

日時:4月16日(木)14:00公演終演後

会場:新国立劇場 小劇場

出演:稻葉賀恵、真飛 聖、増岡裕子

司会:中井美穂

入場方法:本公演チケット(いずれの日程でも可)をご提示ください。

小川絵梨子演劇芸術監督 任期最後のシリーズ企画 「いま、ここに——」

いま、ここに——[2] 『エンドゲーム』[フルオーディション Vol.8]



【公演日程】2026年5月20日(水)～31日(日) プレビュー公演: 2026年5月15日(金)～16日(土)

【会場】新国立劇場 小劇場

【作】サミュエル・ベケット 【翻訳】岡室美奈子 【演出】小川絵梨子

【出演】近江谷太朗、佐藤直子、田中英樹、中山求一郎

ものがたり

家具のない室内。舞台奥に小さな窓が二つ。カーテンは閉じている。壁際にごみバケツが二つ、並んで置いてある。古ぼけたシーツを被って車椅子にかけている盲目のハム。もうひとり、クロヴが不自由な足取りで室内をウロついている。どうやら主従関係のようだ。二人はとりとめのない会話を続け、ハムは常にクロヴに文句を言い、怒鳴り散らし、イライラしている。クロヴはたまに外を覗いたりもするのだが、見えるのは殺伐とした風景のみ。お互い、そんな日常に絶望しうんざりしていた。やがて退屈しのぎにハムが、バケツの中の人間に話しかける。中にいたのは彼の父親らしい。そしてもうひとりは……。

いま、ここに——[3] 『りんごが落ちる』



【公演日程】2026年6月13日(土)～28日(日)

【会場】新国立劇場 小劇場

【作】ノゾエ征爾 【演出】金澤菜乃英

【出演】浜田 学、山口森広、梅舟惟永、宮川安利、大西多摩恵

ものがたり

台所に一人立つ男。ベテラン舞台俳優の田端光太郎。

1時間前、彼は舞台上にいた。近年仕事が減る中、久々に舞台の主役が巡ってきた。

迎えた初日。セリフが止まった。ラスト10分が沈黙劇となった。

田端は今、台所に立ち、料理をしている。二人暮らしの小学生の息子は合宿で不在だ。

そこへ、学生時代の後輩・猿橋が。この舞台の若い演出家・鴨川が。お隣の婦人・鶴野が。それぞれの事情で訪ねてくる。

そして地元で働く妹・夢子からは、何度も気遣いの連絡がくる。

行き詰まり、息が詰まっているアンバランスな人々の、ズレた思いやりと身勝手が錯綜する。

田端は果たして、本当にセリフを忘れたのか？ 明日セリフは言えるのか？

それぞれの人生で止まっているセリフたちが動き出す。

りんごが落ちる。誰が拾う。